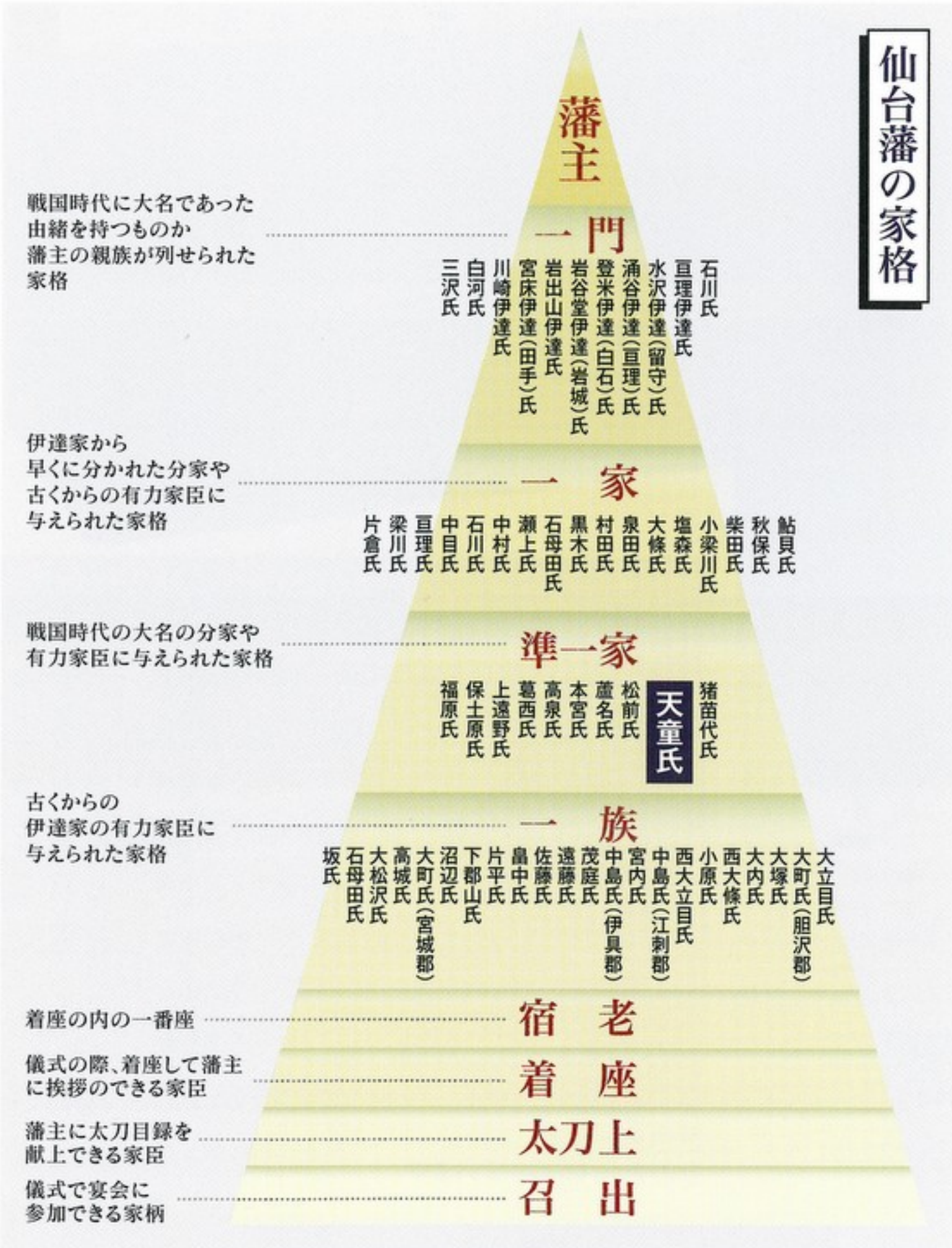


天童氏の領地と八幡のまち

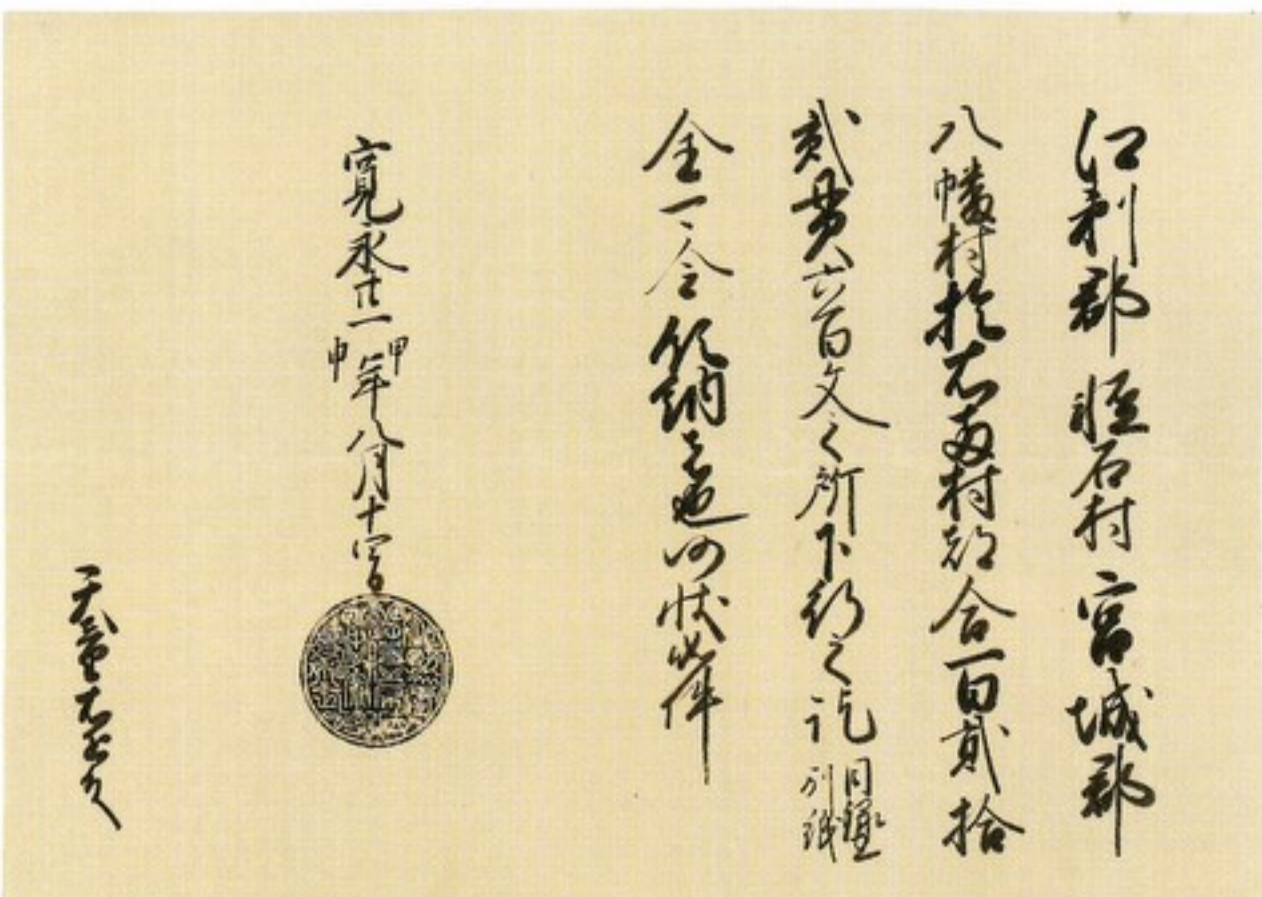
天童氏は八幡村に在所を拝領し、江戸時代をとおして八幡の領主でした。領主の屋敷の周囲には街路が整備され、家臣の屋敷が軒を連ねるまち並みが形成されました。

寛永21年(1644)、2代藩主忠宗が天童定義にあてた黒印状によると、江刺郡軽石村(奥州市)と宮城郡八幡村の中から122貫600文が領地として与えられています。その後、江刺郡栗生沢村・角掛村、宮城郡田中村・中野村・国分小泉村の一部が加えられて134貫767文となり、これらが幕末まで引き継がれました。

仙台藩の家格



天童氏の知行地分布図



伊達忠宗領知黒印状(寛永21年)



知行目録(文政3年)